

リニア新幹線を大絶賛する国交相意見の異常

リニア中央新幹線計画の環境影響評価で国土交通大臣が推進のおすみつきを与える意見を提出しました。環境保全に配慮は言うものの、リニアにより「世界最大のスーパー・メガリージョン(超巨大都市圏とか巨大広域経済圏の意味)が形成される」「国際競争力の強化に資する」と事業に前のめり・大絶賛する国交相意見はあまりにも異常です。

この間の東海ブロック政府交渉や、佐々木憲昭議員による質問主意書などで浮き彫りになった、そもそもリニア新幹線は必要なのか、過大な需要予測、着工ありきで説明責任を果たさず進められる住民無視の姿勢、安全性、エネルギー浪費型のシステム、電磁波による影響、トンネル出入り口の気圧波・騒音、工事による環境への影響などなど、様々な問題は未解決のままです。環境相意見で明らかになった問題についても解決方向を示さない内容になっています。

東京ドーム50杯分もの発生土の処理方法も定まらず、南アルプスに広大なトンネルを掘り、希少動植物も生息する一帯を毎日何百台の工事車両が行き来すること自体が重大な自然破壊。もともと何の国民的要求もない事業でありながら、国会でもほとんど検証や議論もされていません。大企業のもうけのために貴重な自然を犠牲にするリニア計画は中止すべきです。



秋の着工は無謀。中止すべき!

岐阜県議会 大須賀しずか県議

岐阜県の大須賀しずか県議は、6月の東海ブロックのリニア問題政府交渉をふまえ、6月議会代表質問でリニア中央新幹線問題を取りあげました。

大須賀議員は古田知事に対し「電力消費量や沿線地の生態系への影響などが強く懸念される中での秋着工は無謀。中止すべきだ」と迫りました。

知事は「知事意見への返答で十分な箇所は再検討を求め、事業の進捗とともに随時JRに対応を求めていく」とのべ、あくまでリニア新幹線ありきの姿勢をしめしました。

また、大須賀氏がリニア関連事業である岐阜新駅と中央自動車道・国道19号とを結ぶ濃飛横断自動車道のルート上に群生するハナノキやシデコブシへの影響について、「日本生態学会から意見書が出されるなど懸念が高まっている」と問題点を指摘してルートの見直しを求めたのに対し、県土整備部長は「群生地は把握し、配慮している。今後とも影響が極力小さくなるように努める」とルートの見直しには言及しません。

絶滅危惧種のハナノキやシデコブシは「群生地を丸ごと保護してこそ守られる」との地元住民の願いにこたえない県の姿勢が明らかになりました。



7月26日(土)午後2時~ 会場:春日井グリーンパレス

リニアシンポに向け次々と訪問、対話 愛知尾張中部地区

尾張中部地区は、7月26日に佐々木憲昭衆院議員と橋山禮治郎氏をパネリストに「リニア新幹線シンポジウム」を春日井市で開催します。

シンポに向けて、他団体や地域に申し入れ、対話を広げながら参加を呼びかけています。

県議候補の柳沢けさみさんは、農協や商工会議所、リニア沿線に近い小学校、中学校などを訪問。非常口近郊の東部支部、南城支部は、町内会や農業委員などを訪問しています。

また、不二出川支部は、シンポのお誘いとあわせて対話すると「亜炭廃坑が地下にある。リニアのトンネル工事でどうなるか」と心配の声が寄せられています。